

和賀川水系だより～早池峰の今～

永田 京子（和賀川水系の自然を考える会）

1. 各地で試みられる早池峰方式

2006年10月1日（日）

本年度最後のし尿処理は、事故もなく、例年のように最後を36名という多数の参加者で締めくくることができた。これもひとえに、県自然保護課をはじめ、多くの早池峰を愛する方々のお陰だった。

汲み取りも今年で14年目。7月にはゴムべら、ザルを新しくした。必要に応じてやり方に工夫を重ねてきたが、早池峰での「担ぎ下ろしのノウハウ」といわれるようなものができつつあるかもしれない。

当日頂上にいたのは、我々し尿処理班以外に一般登山者は20名ほどであった。盛岡山友会の川村さんの作のコレネシニョール（かぼちゃの餡入りとぐろパン）と、ほかにゆで卵の差し入れもあり、今日のメンバーに配り味わってもらおう。こちら「早ゴミ」は、恒例のカレーうどんを作ってお返しをした。

11時頃から作業を開始する。8月のし尿処理の時、便槽のふたの隙間をコーキングしておいたので雨水の浸入もなく、又使用者も少なかったようで、今回汲み出した量も、91kgと少なかった。

秋晴れの中、紅葉を愛でながらの下山となった。小田越登山口から星野さんの軽トラに汲み取ったボトルを載せる。河原坊登山口のトイレに移し変えたのち、今年度のし尿処理の協力で御礼を述べ解散した。

今回、東京の環境コンサルタントの会社からもお一人参加されていた。屋久島でも山小屋のトイレの担ぎ下ろしを試みたいので、その下見だそうだ。「往復の航空券を5枚ほど送ってくだされば、ご指導に伺います」といっておいたが、航空券はまだ？のようだ。

そこにゴミが落ちていたら、「誰のごみか？」「誰が処理すべきか？」で論議するよりも、ゴミに気づいた人が拾えばよいという想いだけで続けてきた早池峰山のし尿処理。それは「山のトイレ問題」を多くの登山者に呼びかけることとなり、早池峰で試みられていることや想いが全国に伝わり、早池峰方式があちこちで試みられるようになった。自然が自然そのままであり続けるために、思慮深く山に登りたいものだ。

《2006年度年間し尿処理》

延べ参加人数 202名

処理量 540.9kg

（早池峰にゴミは似合わない実行委員会 事務局内匠利光記）

《早池峰シャトルバス導入当時の秘話》

岩手県議会議員を5期勤め、次の選挙では後進に道を譲ることになっている北上和賀選挙区の小原宣良氏は、現在よりもっと道が狭く、しばしば通行困難を引き起こしていた早池峰登山口への交通緩和のため、当時の大迫町長村田柴太さんとシャトルバス導入の必要性を話し合い、自然保護課に申し入れをしたことがありました。しかし、そういうことは県警の管轄ではないかと、保護課にはすげなく断られてしまいました。ところが、それを漏れ聞いた県警が、「何をいっている。シャトルバス導入は県の仕事でしょう。」といったので、シャトルバス導入が実現。今日に至っています。

小原氏は環境問題にも力を入れ、バブルがはじける前の最も開発の盛んな時期に、「岩手県環境保全指針」の早期制定に向けてほとんど独力で奮闘し、成立させました。指針ができたことで関連する各種の条例が作られ、希少なことから身近なことに至るまで、岩手の環境が守られる確かな基準ができました。

2. 2006年5月以降の会の動き

2006年 5月31日 岩手県環境審議会に出席。盛岡市。

6月 3日 早池峰山頂に「携帯トイレの無人販売ボックス」を担ぎ上げ、設置した。早ゴミなど5名。

11日 早池峰山山開き。山頂にて菅沼さんが「携帯トイレの使い方」をレクチャー。冗談を交え上手に説明した。

15日 北上振興局「クマ保護管理検討委員会」出席。

18日 第2回早池峰山頂トイレ、し尿処理。39名で190kg処理

24日 早池峰縦走コース植物調査。片山先生ほか。

7月 1日 高田松原「海岸植物調査」。岩手県自然観察指導員ネットワークと日本自然保護協会の共催。参加者23名。熱心に取り組みました。

9日 山には登らず早池峰山小田越登山口にて携帯トイレの普及活動をする。岡山県で市議会議員をされている方の自然保護活動の様子を聞いた。遠方からの登山者に「早池峰は携帯トイレ」という感覚が浸透してきていると感じる。

14日 横浜の及川さん夫妻を迎え早池峰登山。天候もまあまあでハヤチネウスキソウが最高だった。(永田)

23日 第3回早池峰山頂トイレ、し尿処理。38名で129kg処理。

8月 1日～6日 北アルプスの黒部五郎岳、薬師岳、三俣蓮華岳登山。山小屋のトイレに注目する。処理には苦労がありそうだ。宿泊以外の人は大抵有料。富山県内の高い山には使用済み携帯トイレを置いていくボックスが設置。(永田)

12日 早池峰山頂にて一人でボランティア活動をする。避難小屋で休みながら、隣接してトイレがあるので、携帯トイレのことを聞いたそうな人や、トイレに来た人に気がつくとして出て行って、携帯トイレの使い方、なぜこうするようになったか、担ぎ下ろしのようすなどを話した。広島、東京、札幌から来た人たちが小屋の前で行き会い、利尻や大雪山でも携帯トイレを使っていたとか、あの山この山のこと、お盆中なので高速の渋滞を避けるには東北道より常磐道の方がいいとか一般道の方がいいとか、話に花が咲いていた。(永田)

17日～21日 槍ヶ岳～双六岳。槍ヶ岳山荘も双六小屋もトイレの処理には苦労しているようだった。(永田)

20日 第4回早池峰山頂トイレ、し尿処理。58名で909kg処理。

30日～9月3日 甲斐駒ヶ岳～仙丈ヶ岳。登山口の小屋の前のエコトイレは、流す水が一応浄化されているのだろうが、黄色っぽく汚水状態だった！(永田)

9月10日 第5回早池峰山頂トイレ、し尿処理。31名で40kg処理。シーズン中だが量は非常に少なかった。担ぐものがなく、あぶれる人続出。

16日～17日 「第27回東北自然保護の集い岩木山大会」が、弘前市の旧岩木町にて開催された。参加者約30名。記念講演は、日本昆虫学会会員、岩木の自然を考える会会長の安部東さん。「岩木の自然から——種の多様性と保存」の中で、イギリスでは自然が比較的良く守られてきたが、ある学者は、素人の自然観察者、自然研究者がたくさんいたことがよかったといっている。岩

木山にもプロの研究者はいない。一般の人々の優れた自然観察の積み重ねや研究が、岩木山を守ることに繋がっている、と語ったのが印象深かった。岩手から4名参加。来年の会場は岩手となる。

30日～10月1日 日本勤労者山岳連盟の東日本女性交流会。福島県にて。交流登山は安達太良山。分科会には「女性のための運動生理学」（いつまでも山に登り続けるために）というのもあった。脚力の問題のほかに、山がいつまでも美しくあつての登山というテーマもありそうな気がしたが、なかった。

10月 1日 第6回早池峰山頂トイレ、し尿処理。36名で91kg処理した。

10月 7日～9日 日本自然保護協会の自然観察指導員講習会が金ヶ崎で開催され、55名の新指導員が誕生。岩手では9年ぶりの講習会開催。事務局員として協力。

14日～15日 日本勤労者山岳連盟の北奥羽交流集会。青森県の西目屋村で開催。1日目は白神山地のコアに一番接している天狗岳（957.6m）に登った。山頂からの眺めは、ブナがもっくもっくと大木をなしているのがわかった。夜は交流会。青森の皆さんは携帯トイレにあまり慣れていないようなので、2日目高倉森（829.1m）にて、山頂での休憩時、「携帯トイレの使い方」を人に教えるには」をテーマに、実地に講習した。「早池峰山に携帯トイレ体験登山もいいね」という声が聞かれていた。（永田）

11月 4日 早池峰山頂の無人携帯トイレ販売ボックスを、小屋に取り込む。早ゴミ4名。

11日 初めての「早池峰グリーンボランティア意見交換会」。花巻市大迫にて。参加者約30名。良い機会をつくったと思うが、交換とはいえない脱線もあった。

26日 「第9回早池峰フォーラム」開催。花巻市総合福祉センターにて。メインテーマ「早池峰の環境保護は変わったか」 参加者約50名。

3. 第9回早池峰フォーラムの報告 早池峰の保全対策の現状と課題

国定公園早池峰山の保全を考える「第9回早池峰フォーラム」は、11月26日花巻市総合福祉センターで開かれ、約50名の参加があった。主催同実行委員会。この日は、市民、官、有識者が、早池峰への共通の想いで、いつもよりも一層和気藹々と語り合うことができた。

- 1) 岩手県自然保護課から、「早池峰地域保全対策の5年を振り返る」と題して報告があった。早池峰地域保全対策策定までの経緯など。（当会報では何度か報告済み）
- 2) 「早池峰にゴミは似合わない実行委員会」（早ゴミ）代表の菅沼賢治さんは、「早池峰山を携帯トイレの山にすることを目指そう」と訴えた。「汲み取りの量は年々減る傾向にある。携帯トイレもかなり普及し、早池峰は携帯トイレの山というイメージに近づいている」と現状を説明した。早池峰山は比較的登山時間が短めな山な上、男性にはボトル方式をおすすめしていることもあって、使用済み携帯トイレの回収はそれほど多くないが、トイレが必要な時のために持ち歩いている人が多い。担ぎ下ろしと携帯トイレの普及活動は、1993年から最初有志で始めた。今は県の方針として官民相協力しながら、毎回愉快におこなっている。

元環境庁自然保護局調査官で、岩手県立大学教授の幸丸政明さんは、「担ぎ下ろしと携帯トイレの普及をセットで進めているのは全国で早池峰だけ。誇りにしていい」と評価した。

3) 早池峰山麓川井村に住み、10年以上大規模林道問題にかかわってきた「早池峰の自然を考える会」の奥畑充幸さんは、早池峰山の東尾根を越えた地点で工事が続けられている大規模林道川井一住田線の横沢・荒川区間について、完成後に供用が始まった場合予想される影響について話した。

- ① 剣ヶ峰コースへのアプローチが比較的容易となり、このコースの利用者の増加が見られるかもしれない。しかしこのコースは、登山道が不明瞭であり、場所によっては藪漕ぎを強いられる。また、歩行時間が長く、エスケープルートが存在しないことから、不用意な登山者の遭難が危惧される。昨年昔のルートで試みられた例では、ベテランでも迷って道を探しながら歩いた。
- ② 山に新しい道路ができた場合の常として、高山植物の盗採・山菜・ヤマブドウ・サルナシ・クワリなどの過度の採取、そのための野生鳥獣への影響、クマの里への出没などが心配される。
- ③ 大規模林道の建設で大量に出た土砂を、緑資源機構は高桧（たかび）沢の水源地等に捨てている。早池峰岩体を構成する蛇紋岩、苦鉄質岩、緑色片岩は、比較的風化に弱い。早池峰連峰東部には、早池峰構造帯と呼ばれる地質の大不連続帯も存在する。2005年に地質調査をおこなった元熊本大学教授の松本幡郎氏は、「盛り土部分に排水設備がなく、いつでも壊れる状態で放置されている。谷を横切る個所には暗渠が設置されているが、大きさが不十分で、木の枝や葉で埋まっているものもあり、役目を果たしておらず、鉄砲水や土石流にはまったく無防備である」といっている。

緑資源機構は林野庁の天下り先だと多くの批判を受けながら、岩手県内でも遠野・荒川区間は10年以上前に開通し、横沢・荒川区間はぬらりくらりと大規模林道工事が続いている。

《合併後の新花巻市議会議員の皆さんへの早池峰に関するアンケートの結果から》

〈スイスを代表する山の一つに、マッターホルンがあります。登山口のツェルマットには、数キロ手前のタッシュの大駐車場に車を置き、列車に乗り換えた人々が多数訪れます。シーズンともなれば、人口3千人の村が、20倍の6万人にも膨れ上がり、メイン通りにはお土産やさんが軒を連ね、多くの買い物客で道は埋まります。

ツェルマット周辺には、実に多くのハイキングコースがあり、人々は自分の体力などに合わせて自然と触れ合います。山に精通したアルピニストたちは、マッターホルンの頂きを目指しますが、多くの登山客は中腹のヘルンリ小屋で引き返します。皆が皆、山頂を目指すというピークアタックではないのです。日本人とは違って、自然との付き合い方や楽しみ方が上手なのでしょう。

早池峰山麓には、歴史ある神社があり、神楽の里があり、民話の里があり、美しい溪谷や滝があり、森林浴に適した森もあります。バードウォッチングや植物の観察に適した小道もあります。

山の頂きに登れない方々は、ロックガーデンで早池峰の花を楽しむことができるようにしたり、学べる施設も整えたりして、一カ所にばかり付加をかけないあり方が、早池峰地域の自然には求められると思います。)

(近村春男議員 花巻市大迫町在住、早池峰の里元気倶楽部会員)

本報文は筆者(永田京子氏)の了解を得て、「和賀川水系だより第52号(2006.12.5)」より抜粋転載したものである。